

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390700080		
法人名	社会福祉法人みずき会		
事業所名	グループホーム ラスパみずき		
所在地	岡山県井原市下出部町872番地		
自己評価作成日	平成25年3月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3390700080-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成25年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームラスパみずきでは、ご利用者同士が馴染みの関係で、微笑ましい場面を日常的に目にします。お一人おひとりが持っている力を発揮しながらご自分のペースで暮らせる、居心地の良い場所であると感じています。ご利用者のしたい事、要望があれば其々の担当職員が中心となって、出来る限り希望が実現するように努めています。また、離れて暮らすご家族に日々の様子を知っていただけるよう、写真入りのお便りを毎月届けています。ご利用者やご家族の笑顔が職員のパワーの源となっています。全職員がみずき会の理念を理解し実践する事で、今後さらにご利用者の人権を尊重した質の高いサービスが提供できるよう努力して参ります。地域交流スペースの「足湯」と「蔵」は自由にご利用いただけますので、近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この1年で、各職員が理念を自分のものとし、自信をもって業務に当たれるようになった。また、地域イベントへの参加や、避難訓練への参加呼び掛けなど、積極的に地域に溶けこもうと努力している。ITシステムの導入で、記録を作成するのが容易となり、見たい時に見たい記録が見られるので、業務を振り返り、改善するのに役立っている。これが家族の安心感につながると共に、何らかの事態が起これば、関連する必要な記録を抽出し、それを元に討議ができる。節度を持ちつつ、温かく利用者を見守る職員の対応も事業所の特色になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人みずき会としての理念を基に、地域密着型事業所として地域に根差した施設になるよう、日々の業務を行っている。	事業所独自の理念はないが、11項目の法人理念の実践に重きを置いている。職員を教育する際は基礎理念を折り込んでいる。理念の浸透を確認するために年2回のテストを実施して、理念の理解と周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事への招待、地域行事への参加、ボランティアの慰問の受け入れ、町内の美容院利用など地域の一員として日常生活を行っている。	近隣の来訪者に、職員の利用者への関わり方を見てもらっている。求められれば業務の解説もする。地区の餅つきに誘われ、建物内の他事業所の利用者とは出かけ、住民と一緒に楽しんだ。近隣の学校行事にも利用者とは出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、施設行事がある時には、ご利用者との交流を通して地域の方に認知症状や支援の方法についての理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、運営状況や活動状況を報告した後、出席の方々から頂いた意見は検討してサービスの質の向上に活かしている。	地域の催事情報を得たり、訪問ボランティアとの新たな関わりを作るきっかけに活用できている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者には運営推進会議に出席して実情を知っていただくと共に、分からない事についてはその都度相談を行って協力を頂ける関係作りにも努めている。	「業界での先進的なパソコンの記録方法を見せてほしい」と市の職員の訪問があった。普段は市へ介護保険制度の問い合わせをしている。担当者は固定しており、気さくにやりとりに応じてくれる。地域包括支援センターとの関わりはやや薄い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的な勉強会を行い職員に周知している。職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	昼夜逆転の利用者へは、センサーマットや見守りの強化等により、柵をするなどの拘束を回避している。家族には、敢えて拘束しないことと、それで生じるリスクを説明し、理解を得ている。「ちょっと待って」という言葉がたまに出るが、できる限り使わないよう、心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の高齢者虐待防止の研修会に参加し、虐待についての意識を高める事で虐待防止に努めている。		

グループホーム ラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会に参加する機会を設け、必要な時にはいつでもマニュアルが閲覧できるようにしている。またスタッフ間で情報の共有を行っており、必要時には連携を図り実施する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際はご本人、ご家族が納得される様に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者ご家族から運営推進会議で要望や意見をいただいている。また玄関に意見箱を設置している。	苦情処理マニュアルを作成し、処理手順等を明確にしている。意見箱に投書が入ったことはないが、積極的に意見収集しようと、家族の来訪時には、気付いた点がないかと聞き出している。家族アンケートでの事業所に対する評価は概ね高かった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との面談、グループホーム会議、ラスパ会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、その意見を反映させている。	会議以外にも、職員が管理者やホーム長と1対1で話をする頻度は高い。職員意見の反映事例には鞆の浦へのバイキング旅行等がある。法人は利用者の満足度向上に意欲的で、例えば行事なら、十分な下準備や万一の際の対策を条件に、職員からの提案を積極的に受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員が自己評価を行い、各々が自分を振り返り目標を明らかにしている。また定期的な面談を行う事で気持ち良く働けるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに各職員の研修計画を立て、事業所内外の研修会でスキルアップできるように支援しており、研修報告の場を設け職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会、研修会に出席する事で同業者と交流する機会を作り、サービスの質の向上を図っている。今後地域密着型のネットワークづくりを図っていきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階ではアセスメントによる暫定プランを立てた後、入居1ヶ月後に再度、必要なニーズが無いかなプランの見直しを行っている。ご本人に自分の想いを口に出して頂ける様に寄り添うケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の想いと同じく、ご家族が困っている事や不安な事についても傾聴し、信頼関係が出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に、必要としている支援の優先順位を整理し、ご本人、ご家族に事業所として出来る事、出来ない事を含め説明を行っている。他のサービスについての提案も随時行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持っている力を見極め、出来る事はして頂きながら共に暮らす者同士としての関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の代弁者として、ご家族の代弁者として家族の絆を繋ぐように支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活してきた馴染みの場所にお連れしたり、馴染みの人とおしゃべりが出来る場所を提供している。	「手紙を書いてほしい」、「家族に会いに来てほしい」という利用者の要望に対し、家族の現状も踏まえて支援している。昨年は皆そろって同じ神社に初詣に行ったが、今年は各利用者の行き慣れた神社に行った。家族と一諸に参拝した人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の思いやりや、助け合いの場面も多々ある。ご利用者同士が良い関係で生活できている。		

グループホーム ラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、何かあれば相談して下さいと説明をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者担当職員が中心となってご本人の希望や意向を発信している。	電話で話す心が落ち着く利用者には携帯電話を家族に用意してもらったり、ボールゲームの方法を工夫したりと、事業所全体で利用者の思いを上手に探り出し、満足できるようにしている。気力がなかったのに、表情が変わり「自分ほね」と声を出すようになった利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントの他、此处で生活している間に段々分かってくる情報についても職員で共有し、サービスの向上に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の変化や気づきを記録に残し職員皆で共有する事でご利用者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を伺い、担当職員と協議しながら現状に即した計画書作成に努めている。	モニタリングの際にはケアマネージャーが担当職員の話を集めると共に、利用者や家族とのやりとりから介護に対する満足度を判断し、次の介護計画に反映させている。職員は各利用者の介護目標を読んでいるが、介護への反映度合はまちまちである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録システムを使い個々の記録を残している。また職員間でご利用者の情報を共有しサービス実践や介護計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の新たなニーズに対応できるよう、職員間の調整を図りながら、柔軟な姿勢サービス提供を行っている。		

グループホーム ラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ、把握できていない地域資源がある。ご家族や近隣の方との関わりの中から、それらを一つでも増やし、ご利用者の暮らしが豊かになるように支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については今までの暮らしやご本人ご家族の希望を大切にしている。適切な医療を受けられる様に、ご利用者各々の主治医と事業所間の連絡を密にしている。	3名の利用者が従来のかかりつけ医を継続している。地理的な利便性で主治医を協力病院に変えた人もいるが、元々協力病院を受診していた人も多い。受診は原則として家族が付き添うが、無理な時はできる限り事業所に対応し、遠方の家族から喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設である小規模に所属している看護師と連携を取りながら、医療において適切な対応が出来る様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医や協力病院との連携を常日頃からとり、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、当施設では実施する体制にないため、重度化や終末期に関しては、病院やご家族と十分に協議していくように努めている。	現状では看取り体制がないので、重度化したら同一法人の特別養護老人ホーム等を紹介することもできると説明し、理解を得ている。しかし、まだ、そうした事態に至ったことはない。	終末期の方針を文書として明確化することを前向きに検討中なので、それを進めて、家族がいつでも内容を文書で確認できるようにすると共に、同意書を得て、家族の不安と不要なトラブルの発生を抑えられるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、マニュアルを作成した上で、定期的にマニュアルの見直しを行っている。また職員全員が普通救命救急講習を修了している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施し、地域の住民にも声をかけ避難誘導や初期消火の方法等を身につけられるようにしている。また防災意識を高める為の勉強会も行っている。	開催予定の避難訓練について、近所からの参加の申し込みを受けている。打ち合せにも出席してもらい、炊き出し食の試食も計画している。昨年近所が火事になり、職員が消火器を持って駆けつけたら、救急活動をして、地域から感謝されている。	一部職員の、緊急通報装置に対する設置場所と操作方法の勘違いを正し、統一した手順の徹底を期待したい。発見された排煙窓の不備以外に、他に防災上の問題はなにかの確認も期待したい。

グループホーム ラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接遇の勉強会を行っている。言葉使い、ご利用者の呼び方についても話し合いが出来る時間を設けている。	各利用者にとっての心地良い言葉を遣い、利用者の発する言葉に合わせて臨機応変に対応している。利用者を人生の先輩、お客様と考え、命令や否定の言葉を使わないようにし、また利用者が尊厳を持った生活を送れるよう、管理者は職員に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で何かをするときは強制ではなく、ご利用者の意見を受けるようにしている。想いや希望が口に出せるような雰囲気作り、複数の中から選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	消灯時間は決めているが、ご利用者個々の生活スタイルを尊重できるようにしている。入浴時間についてもご利用者の要望に応えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容により定期的に行っている。また、ご利用者、ご家族の希望により馴染の美容院に行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒にごしらえや食事準備、食器拭きなどご利用者の負担にならない程度の役割を持って頂いている。	各食卓には最低一人の職員が座り、利用者と話せるようにしている。普段の食事は食材や栄養バランスが偏らないようにしている。また、敬老会等の催しで刺身を出したり、外食したりと、非日常の食事も工夫している。職員パティシエによるおやつが好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算、栄養バランスのとれた食事が提供できている。水分についても嗜好に合わせるため豊富に取り揃えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後3回の口腔ケアを行っている。歯ブラシ・コップについては天気の良い日は天日干しを行い、毎週消毒を行っている。		

グループホーム ラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握し誘導、声かけを行っている。眠前薬を服薬されるご利用者は夜間ポータブルトイレを使用している。	排泄パターンを把握し易い利用者、そうでない利用者ともまちまちではあるが、トイレでの排泄に力を入れている。昼夜を通しておむつの人はいない。夜間は、ゆっくり寝たい人にはパッドをあて、起きたい人には声をかけてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲料水は豊富に取り揃え嗜好に添えるようにし、1日の水分摂取量を1L以上を目標にしている。また体操の時間を設け、参加を呼びかけ体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況、体調に合わせて特殊浴槽、普通浴槽、岩風呂を使用している。入浴時間・回数についてもご利用者の希望に添えるようにし夜間入浴も実施している。	入浴は週に2～3度の人が多いが、毎日の人もいる。入浴時間は19時頃まで対応している。ほとんどが個浴を利用するが、身体状況や要望によって機械浴のこともある。入浴日は予め決めていたが、順番はその日の状況に応じて変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活スタイルに合わせるようにしている。起床・臥床時間は決めていない。シーツ交換を毎週行い、清潔な環境で安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報はその都度確認し共有している。服薬時は一人ひとり手渡し、飲み込みまで確認している。また臨時薬を服用された場合は、その後の経過を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の趣味、得意なこと、好きなことで力が発揮して頂けるように、また充実した時間が過ごせるように支援したいと努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候・天候に配慮し、散歩・買い物など希望に沿った外出が出来るように支援している。またご家族に参加してもらい、季節ごとに外出・外食の機会も定期的に設けている。	朝の日光に当たると、気持ちが和らぐので、気候が良ければ、近所を散歩をしている。日頃はウッドデッキで、お茶を飲んだり、電車を見て楽しみながら外気に触れているが、時には遠方の景勝地へドライブに行くこともある。	

グループホーム ラスパみずき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、お金を所持してもらい、希望に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了解が得られれば、自由に電話をかけたり、受けたりされている。手紙のやり取りについても代筆、投函など必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペース、居室の壁を漆喰にすることで落ち着いた空間になっている。またご利用者の作品や写真を掲示できるスペースも確保し居心地良く生活できるように努めている。	車椅子用トイレに、利用者の使い慣れた型の手すりを増設したり、トイレに新たに棚を付けたりと、暮らしやすくなるように日々改善している。壁には普段は過剰に貼り物をせず、催しの時の賑やかな感じと平素の落ち着いた感じのメリハリを付けている。	全体的にはきれいだが、浴室と脱衣場の換気扇、浴室の扉のレールが汚れていた。チェックリスト等を活用し、日頃見落としがちな部分も定期的に清掃するよう期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングスペース、ソファスペース、テラス等を用意し、その時々気分にあつたスペースを提供し、居場所の空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の説明時に、今まで慣れ親しんだ物を持って来て下さるようお願いしている。家具の配置についても身体状況、希望を確認し配置を決めている。	利用者の馴染みの大きな三面鏡や毛皮を持ち込んで、自宅の雰囲気を出している居室もある。各人が「自分の部屋」と意識し、寝る前の体操をしたり、日記や手紙を書いたり、顔の手入れや化粧をしたりと、思い思いに居室で過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体はバリアフリーであるが、ご利用者に新たなニーズが出た時、手摺り、棚を増設するなど、どのようにしたらご利用者が安全で自分の力が発揮出来るか検討し、改善している。		